

～人権が尊重されるまちをつくろう～  
～身近な生活の中から学ぼう～

2024.10.21  
第84号



# 人権・同和教育だより 丹波篠山

発行  
丹波篠山市  
人権・同和教育研究協議会  
TEL・FAX 079-593-1260  
http://t-s-doukyou-hr.jp  
〒669-2734 丹波篠山市宮田240  
丹波篠山市役所 西紀支所3F  
年3回発行 6・10・2月

## 2024年12月14日(土)13:00～16:00

### 第22回 人権フェスタ in 丹波篠山

会場：丹波篠山市立田園交響ホール

開会行事、あいさつポスター・人権作文受賞者表彰及び作文発表等 13:00～



第25回研究大会の様子

## 第26回 丹波篠山市人権・同和教育研究大会

主催：丹波篠山市人権・同和教育研究協議会、丹波篠山市、丹波篠山市教育委員会

テーマ：誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく幸せに生きることができるまちづくり

### 大会趣旨

丹波篠山市人権・同和教育研究協議会は、発足以来「差別の現実から深く学ぶ」ことを基本理念としてきました。近年、インターネット上の悪意ある様々な書き込みや無責任なフェイク情報の拡散により多くの人権課題が生じています。ネット社会はその匿名性や情報発信の容易さから簡単に差別が広がり、偏見が増幅される社会であり誰もが意図せず巻き込まれてしまいます。今大会は、部落差別とネット人権侵害について学び、あらゆる差別解消をめざし、誰もが自他の人権を尊重し、自分らしく幸せに生きることができるまちづくりの実現につなげたいと思います。

### 基調講演

14:00～16:00



〔演題〕 ネット人権侵害と部落差別の現実  
～「寝た子」はネットで起こされる!?!～

〔講師〕 川口 泰司さん(一般社団法人 山口県人権啓発センター 事務局長)

## あなたも丹波篠山市人権・同和教育研究大会に参加してみませんか？

※どなたでも参加できます。手話通訳・要約筆記あります。託児できます(要予約)。

※気象状況等により、変更・中止になる場合があります。その場合は市同教ホームページでもお知らせいたします。  
12月13日(金)までは、電話で問い合わせいただくこともできます。(TEL: 593-1260 月・火・木・金)

## 「人権・同和教育セミナー2024」より

人権問題が複雑化、多様化しているなか、部落差別の現実をみると、社会の矛盾や人権課題が見えてきます。本年度は部落問題をはじめ、様々な人権問題について学びます。部落差別解消があらゆる人権課題を解消することに気づくため、一年間にわたるセミナーを企画しています。セミナーの様子と参加者の感想を紹介します。



### 第1回

8月3日(土)開催

「部落問題から差別のない社会を考える」

講師 宮前 千雅子さん(関西大学人権問題研究室委嘱研究員)



部落差別をはじめとするあらゆる差別について、属性(自らの性、国籍など)の視点に立って構造的に解説いただきました。また、丹波篠山市の部落問題に関する意識調査を実例として、部落差別の実態を読み解いていただきました。何もしなければ部落差別は無くなる「寝た子を起すな」という考えが多く存在すること、またインターネットの社会では、部落差別が増大していることを危惧されました。差別を解消するためには、マイノリティ(少数派/当事者)が変わるのではなく、マジョリティ(多数派)が変わらねばならないこともお話いただきました。

### 【参加者の声】

- \*部落差別を話題にせず、知らないから差別のない状態にするのではなく、理解した上で、差別しない社会をめざしていきたいと思いました。
- \*自分事として考えることの大切さを学びました。「寝た子を起すな」という意見が出た時、何も言えませんでした。今なら自分の意見が伝えられるような気がします。
- \*自分にもマイノリティの部分とマジョリティの部分があり、マイノリティの部分は自分の強さや優しさにし、マジョリティの部分の鈍感さが知らないうちに人を傷つけていないか意識を持っていたいと思いました。「マイノリティの問題提起を解決に導くのはマジョリティの力」、今日も大きな学びがありました。

第2回セミナーは台風10号のため中止となりました。(来年度のセミナーに予定しています)

### 第3回

9月28日(土)開催

「好感・共感・親近感が人権力を育む…  
～人権・同和教育のさらなる創造めざして～」

講師 明石 一郎さん(関西外国語大学短期大学部教授 人権教育思想研究所長)



人権といえばネガティブにとらえられがちですが、幸せの追求であるという事、そして人権問題の解決は、すべての人の幸せにつながる事を語られました。

また、教員時代の実例をたくさんあげてお話いただき、より具体的に説得力ある講演でした。

まちがった先入観や思い込み、無関心が差別をうみだし、正しく学ぶ事、くらしを通じて課題を自分自身に引き寄せる事(自分事として考える)の大切さを改めて教えていただきました。

### 【参加者の声】

- \*明るい講演だったので、聞きやすく、具体的な経験談なども聞いて勉強になりました。
- \*同和教育を学ぶ目的についてよく理解することが出来ました。「同和教育=みんなが幸せになる教育」「個人ではできないことも仲間がいれば出来る事もある」を胸にとめ、人権・同和教育を進めていきたいと思いました。
- \*みんなが幸せになる教育が人権教育、まさに、教育の根底、基本であると思いました。良いことか悪いことか、人権・同和の堅いイメージが薄れた気がしました。

※第4回セミナー(11月2日)は「中央図書館 視聴覚ホール」で行います。

※第5回セミナー(1月25日)は「丹波篠山市民センター 催事場1・2」で行います。

### みんなの人権を考える映画会 『島守の塔』より



(C)2022 映画『島守の塔』製作委員会

第二次世界大戦の沖縄戦末期、本土より沖縄県知事として派遣された島田勲(兵庫県出身)の実話をもとにした映画『島守の塔』を放映しました。彼は軍の命令に従い、苦悩と葛藤に悩まされながらも沖縄県民の疎開・保護に尽力しました。そして

「命どう宝(命こそ宝)、生きぬけ」と叫び続けました。平和と命の尊さを学んだ映画会でした。

#### 参加者の声

- 戦争によって多くの人命が犠牲となった悲惨な歴史を後世に語り継ぐ必要があると考えさせられました。「命どう宝」を大切に平和を願います。
- 戦時中の沖縄の悲惨な状況を知り、心が痛み、涙が止まりませんでした。
- 戦争の恐ろしさをつくづく感じました。今の時代でも戦争が起こっていることに心が痛みます。
- 79年前のことがよく分かりました。プロパガンダの恐ろしさ、1人の人間の命の大切さがよく分かりました。

### 専門部会研修会 セミナー など



#### \*地域部会研修会

第1回～第5回の人権・同和教育セミナーから一つの研修会を選んで参加(第1～3回は終了)

#### \*保・幼部会研修会

10月24日(木) 18:30～20:00

内容:「不適切な保育を避けるために」

講師:山縣 文治さん(関西大学教授)

場所:四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

#### \*企業部会研修会

10月31日(木) 18:30～20:00

内容:「みんなが働きやすい職場にするために

～職場におけるハラスメントをなくす～」

講師:三枝 太希江さん(兵庫働き方改革推進支援センター)

場所:丹波篠山市民センター 多目的ホール

#### \*第4回人権・同和教育セミナー

11月2日(土) 14:00～16:00

内容:「問題の所在はどこか

LGBTsの子どもの存在が問いかけるもの」

講師:土肥 いつきさん(京都府立高校教員)

場所:中央図書館 視聴覚ホール

#### \*女性の人権と性の多様性部会研修会

11月2日(土) 第4回人権・同和教育セミナーと合同開催

#### \*障がい者部会啓発チラシ配布

「障害者週間12月3日～9日」

12月2日(月)、12月3日(火)に市内8カ所にて啓発チラシ配布。

※ホームページにて配布場所・配布時間を告知します。

12月22日(日) 市民センターまつりにても啓発チラシ配布。

#### \*PTA部会研修会

1月19日(日) 13:30～15:00

内容:「今、子どもたちが抱える問題と親としての関わり」(仮)

講師:原 清治さん(佛教大学副学長)

場所:四季の森生涯学習センター 東館 大会議室

#### \*第5回人権・同和教育セミナー

1月25日(土) 14:00～16:00

内容:「差別問題と市民の人権」

講師:奥田 均さん(近畿大学名誉教授)

場所:丹波篠山市民センター 催事場1・2

#### \*宗教部会研修会

3月上旬予定

#### \*高齢者部会研修会

市内各老人クラブ単位で実施します。

※上記の研修会等は気象状況等により中止や変更する場合があります

## 暮らしの中から

### 我が家の農業未来予想図

我が家は3世代同居で兼業農家。おそらく、少し前までは、農村に普通に見られた家族形態ではないでしょうか。農林業に関する統計書「農林業センサス」をひもとくと、丹波篠山市の農家数は、2000年に4,820戸だったのが2020年には2,365戸と半数以下に激減。今後も減少が続くと見込まれています。

さて、巷で「令和のコメ騒動」などと揶揄されていた最中の9月初旬、家族総出での稲刈りを行いました。ここ数年、役割が決まっていた、ボクがコンバイン担当、父と妻が粉運搬と乾燥機担当、母が家事担当となっていたのですが、今年は変化が生じました。小学6年生の息子が「一人でコンバインに乗る」と意気揚々。初めはボクが助言したり、付き添ったりしながらでしたが、いつの間にか、見事に操作しているではありませんか。妻とは「今だけかもね」と苦笑いを交わしつつ、後継してくれることに微かな期待を抱いたところでした。

ボクは、「爺ちゃん子」だったようで祖父の影響が強く、物心ついた頃には、「後を継がんとあかん」と考えていたように思います。でも、この30年ほどで、「家」に対する認識は大きく変わりました。

内閣府の男女協働参画局がまとめている「男女協働参画白書 令和4年度版」によると、家族の現状は、「もはや昭和ではなく、人生100年時代を迎え、独身でいる人、結婚という形を取らずに家族をもつ人、親と暮らす人など、人生の多様化とともに、家族の姿は変化している」としています。

今、我が家の跡継ぎ候補である息子は、どんな未来予想図を描くのでしょうか。ボクと同じように「後を継がんとあかん」と思ってくれるのでしょうか。コメは作り続けてくれるのでしょうか……。おっと、親バカの下心が出てしまいましたね。

ひとつだけ言えることがあります。それは、今、農業生産の尊さや喜びを、息子共々家族で共有できていること。確かに、生き方や家族の形態は時代とともに変わったかもしれませんが、家族であることのささやかな喜びを、変わらず大切にしたいと思います。それと、農業も何とか頑張ります(笑) (安井 聡博)

### 食べること・つながること

ある日、中学1年生になる孫が我が家に飛び込んできた。「あ～お腹ペコペコ」部活を終えて自分の家までたどり着けなかったという。給食は全部食べたのと聞くと、ほとんど残ってしまったと言う返事。その日は「世界の味めぐり」の献立で、慣れない味には抵抗感があつたのであろう。食べたのはパンと牛乳だけだったらしく、「お腹ペコペコ」となったのである。すぐに、おにぎりと野菜炒めを出してやると、おいしそうに食べることを。おかわりまでして、「ばあばのごはん最高!」と満足そう。2人で大笑いしてしまった。本当に、「空腹は最大の調味料なり」である。

私たちは毎日必ず食べる。我が家は夫と2人暮らしで、3食ほとんど規則正しく食べる。家でとれた米と野菜を中心に、肉と魚と卵等を組み合わせて料理を作る。同じような献立の繰り返しになるが、あまり文句を言わない夫に助けられている。時々旅行に行ったり外食をして、おいしい物食べるのも暮らしの中のアクセントになっている。食べることを通じて会話が弾むことが多い。

以前から、家族の生活スタイルが個別化したことで、子どもたちの個食・孤食の習慣が増えているという調査結果がある。専門家が調査を続けた結果、現在ではさらにその傾向が進み、子ども自身が孤食を望む傾向にあるという実態が明らかになった。さらに、食事でのコミュニケーションの成立が子どもの人格形成や精神面の発達に極めて重要であると報告されている。

食事は、ただ物を口に運んで体に栄養を送るだけの時間ではない。ごはんは1人より誰かと食べることで食の時間が楽しくなり、味もなぜかおいしく感じるように思う。家族と食べることで、母・父・家族の味を大切に思えるようになり、子どものときに正しい食意識・食態度・食知識を学ぶことは、これからの人生を送る上でとても大切だと考える。子どもたちの食卓がどうか楽しいものでありますように。

以前、新聞の読者欄でこんな記事を読み胸が熱くなった。それは一人の母親からのものだった。高校3年生の娘は、1年間毎日作ってもらったお弁当の写真を撮ってアルバムにし、卒業の日にお母さんに手渡したという。子どものために作って当たり前のお弁当。でも、彼女はそのお弁当に込められたお母さんの味と愛情をしっかりと受け取っただろう。この親子の絆の深さを想像して、私までとても幸せな気持ちになった。



(西田 こそ枝)

### フィールドワーク 水平社の理念から学ぶ ～人間の尊厳と平等を求めて～より

今年度は2022年にリニューアルした水平社博物館で研修をしました。差別と闘い、道を切り拓いてきた先人たちの足跡や遺志を解説いただきながら見学しました。水平社の理念でもある、「人間の尊厳と平等」をあらためて学びました。

#### 参加者の声

- 水平社の理念を歴史とともに分かりやすく説明していただきました。
- 部落差別と闘い道を切り拓いた先人の方々の人間の尊厳と平等をより深く学ぶことができました。
- 改めて差別のことを考えました。普段の生活の中で今日の研修を心に留めていきたいと思えます。



### 住民会費・企業会費の納入に感謝いたします

自治会をはじめ、市民や企業の皆様のご尽力により、9月末現在 3,283,670円の会費を納めていただいております。この貴重な会費は、私たち丹波篠山市で生活するすべての人たちが、互いの人権を尊敬し、あたたかく優しい気持ちで暮らしていくための啓発・学習活動に使わせていただいております。今後とも丹波篠山市同教事業にご理解、ご支援いただきますようお願いいたします。

### 編集後記.....

先日の市同教フィールドワークでは、奈良の御所市にある水平社博物館にて研修をしました。差別に抗い、闘ってきた先人たちの展示には、差別撤廃を願う強い意志を感じました。展示の中には、「命どう宝」の言葉がありました。この言葉は今年度の「みんなの人権を考える映画会」で放映した「島守の塔」で描かれた島田勲の言葉です。この言葉は沖縄で大切にされてきたのだらうと思います。水平社博物館での展示とこの映画とが重なり、命の大切さをより考えさせられました。